

## 医療安全と看護ケアに関して

### ■ キーワード

看護ケア、安全、医療機器、ロボット

### ■ 概要

看護ケアを実践する中で、看護師のマンパワー不足は医療現場においても非常に深刻な問題となっている。実際に看護業務をサポートしてくれるような機器の開発。



もちだ たかし  
餅田 敬司 副看護部長

主な経歴：看護学修士(管理学)(兵庫県立看護

一大学)

所属学会：日本看護科学学会, 日本看護研究学

会、日本看護診断学会など

### ■ 内容

高齢少子の時代に突入した日本では、今後ますます産業労働人口は低下しそれに比率して、医療界における人員不足も加速すると思われます。そんな中で、看護は人と人の関わりをとおし、患者さんの内なるエネルギーを最大限に発揮できるように援助しなければなりません。しかし、今日の医療現場では、早期に異常を発見する為に神経を集中させ、医療機器の監視や管理、設定など多岐にわたるチェックが増えており、人間の目と手なる部分(看)が医療機器に注がれています。先進的な医療技術が開発され検査や治療方法も大きく変わってきている中で、患者さんは心のケアや人と人の関わりを求められており、その為の十分な時間が割けられない看護者のジレンマも存在しています。

今後、看護ケアや看護業務にロボットやIT技術の導入で、看護や介護の負担軽減に役立ち、尚且つ患者さんの自己治癒力を高められるような関わりと技術開発が進めば、マンパワー不足と事故防止に役立てられるのではないかと考えています。

例えば、

- ・患者さんを車椅子からベッド、ベッドからベッド移動する際、看護者一人でも行えるような力をサポートしてくれる技術。患者さんに接している部分は看護者の腕であるが力だけ貸してくれるようなもの。
- ・転倒転落防止予知センサー(現在のモノは、転落転倒してからブザーが鳴るのでその前に知らせてくれるもの)
- ・追跡システム(リングや小型センサーで離院した人や迷子になられた方を素早く検索できるもの)
- ・携帯型ナースコール(病室のボタンからではなく、患者さん自身携帯するタイプ)など

分野・業種	看護・介護
シーズにかかわり希望する研究課題	
コメント・メッセージ	患者さんの視点に立った技術開発と看護・介護負担の軽減につながるモノづくり
特許出願状況	なし